

おわりに

人と人がつながりあって信頼感や自己肯定感を実感しながらともに生きていく社会が実現されることを願って、新たな社会参加を促進するためのシステムづくりを提案した。

個人が参加し、団体・組織が活動を活性化する中で、それぞれがあと少しのつながりを持つことで、自らが達成感を実感するだけでなく、社会全体を変えていくものにつながるという意識が広がることが重要である。

社会参加を促進するにあたっては、家庭の教育力の低下が指摘される中、個人の社会参加が、その孤立した家庭と地域社会とのつながりを築いていくものであることに留意しながら進められることを期待する。また、既存の団体・組織の効果的なつながりの重要性について提言をしてきたが、社会参加を促進するため、さらに、新しく活動をはじめめる団体・組織の育成や支援を望むものである。

社会参加の促進は、人々の意識が変わり、行動に結びつく必要があり、時間をかけて定着していくことから、大阪府をはじめ行政は、長期的な取り組みとして支援を続けることが必要である。また、社会参加の促進に携わる職員は、地域で活動している人との交流や、具体的な取り組みへの参加を通して、とくに地域の実情を把握するなど、「社会教育行政こそが社会参加する」という意識を持って、効果的な施策を展開することが望まれる。

おわりに、社会が急激に変化する中で、地域や団体・組織の実態に応じた取り組みを展開していただくためには、必要に応じて、この提言も検証していただくことを願います。